



(彦根西部)

永田遺跡は、本遺跡の北側を西から東に流れ琵琶湖に注ぐ鴨川が形成した沖積平野に立地する。
本調査は、ほ場整備事業に伴うもので、永田城の土塁状の遺構保存のために、その広がりを確認する目的で実施された。永田城は、近江の中世において守護職として台頭していた佐々木

滋賀・永田遺跡

- 1 所在地 滋賀県高島郡高島町大字永田
- 2 調査期間 一九八四年(昭59)一〇月～一二月
- 3 発掘機関 滋賀県教育委員会・勸励県文化財保護協会・高島町教育委員会
- 4 調査担当者 白井忠雄
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 奈良時代～平安時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

氏の傘下に入った土豪永田氏の居城である。

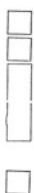
木簡は、遺跡の東北部に位置する九世紀前後の遺物包含層中より出土した。他の出土遺物としては、斎串・木杵片・陽物・木盤が数点、墨書土器「媛」・「志津」、銅製銚子の銚具(裏金具)一箇・丸軀(表金具二箇)二箇・巡方(表金具二箇)二箇、それから貨幣が一、二枚出土しており、そのうち、和同開珎が三枚、万年通宝が一、二枚、神功開宝が八枚である。神功開宝はすべて火を受けており、二枚と五枚に溶着しているものが見受けられ、近くで火災があったことがうかがえる。遺構としては、木簡出土地点から西に井戸二基と柱穴跡が数箇所確認され、住居域の可能性をのぞかせる。

8 木簡の釈文・内容

(1) 田廣濱

(表文)

秦棕人酒公秦廣嶋



250×(39)×4 011

上下は完存するが、左側がおよそ二分の一ほど欠損している。頭部下方には直径三mmの孔が穿たれ、柱などに掛けて使用したものであろう。

9 関係文献

『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書Ⅻ-8』(滋賀県教育委員会・勸励県文化財保護協会 近刊) (白井忠雄)